８　一日の保育の流れ

保育をする前の準備

幼児の前に立つまでの周到な計画と準備は、幼児の遊びを豊かにし、保育を充実する必要条件である。そのためには、先輩の助言を参考に教師として主体的に取り組むことが基本である。

また、担当学級だけでなく園全体の活動を見渡して、他の教職員との連携体制等を確認する。

朝の活動

○保育のねらい、一日の流れ、指導体制等を確認する。
○教材・教具の準備と点検を行う。
○朝のあいさつをする。
○一人一人の幼児と笑顔で言葉を交わし、表情や様子から健康状態を把握する。
○かばんや帽子等の持ち物を決められた場所に整理し、活動しやすい服装に着替えるように言う。
○出席ノート等で出欠、家庭からの連絡事項を確認する。
○昨日の遊びのことを話したり、遊びたいことを聞いたりして、それぞれの幼児が遊び出そうとするのを見守ったり、遊びのきっかけをつくったりする。

保育

「学ぶ」は「真似る」から出発するものである。したがって、幼児は、教師の言動を見て育つという一面がある。幼児の前に立つ時は、明るい表情、温かい態度で、熱意をもって保育に当たるようにする。

○幼児理解

幼児の表情、健康状態等を素早く見取り、一人一人の幼児の実態をよく把握した上で保育に臨むことは、保育の展開の充実や保育効果を上げるために極めて大切である。

○言葉かけ

温かい雰囲気で、幼児を見つめ、言葉を選び、分かりやすく、心の奥底に届くように話をするとともに、常に正しい言葉を使うように心掛ける。

○直接的な援助

幼児の活動を大切にした教育を進めるには、一人一人の幼児が着実に発達するための体験をもつように、必要な助言や援助を行うことが、教師の大切な役割であることを忘れてはならない。とりわけ、ありのままを認める、共感する、励ます、手助けする、相談相手になるなどは、幼児の活動を豊かに展開することにつながり、体験を確かなものにするために必要なことである。

〇整理と後片付け

当日の保育の中で、使用した教材・教具等を所定の位置に返しておくことはもちろんであるが、遊びや経験する内容によっては引き続きそのまま出しておく方が、次の遊びへの発展や深まりとなる場合がある。

整理や後片付けは、幼児と共に作業する中で援助していくことが効果的である。散乱している教材・教具をきちんと整理し、後片付けをすれば気持ちよく、安全に過ごせることにも気付かせる。

終わりの集まり

１日の生活全般について振り返り、話し合ったり、担任からの連絡をしたりする場である。幼児がその日の園生活の中で楽しかったことやうれしかったこと、困ったことを話し、聞くことができるようにする。

〇幼児に、明日の予定を話し、活動への期待をもたせる。
〇一人一人の幼児が満足して生活できたかを捉え、共感する。
〇担任の話や友達の話をしっかり聞くように促す。
〇降園の準備をさせる。
〇服装を整え、忘れ物がないか確かめさせる。
〇帰宅後の過ごし方について指導する。
〇幼児の帰宅方法や持ち帰らせる物を確認し、送り出す。

日々の保育の評価

日々の保育の営みの中で一人一人の幼児の発達の姿から指導が適切であったかどうかを振り返る必要がある。また、一日の保育の中で、幼児の姿がどのように変容していくか、その過程を捉え指導の手掛かりを考えていくことが大切である。

〇今日の指導を振り返り、環境を再構成し、明日の幼児の生活の流れを予想する。
〇幼児の活動の在り方や教師の指導の在り方について、それぞれ評価の視点を明らかにしておく。

（教育活動の評価の視点）

・具体的なねらいや一日の保育の流れが、幼児の生活する姿から見て適切であったか。
・環境は、ねらいや内容にふさわしいものであったか。
・幼児は、活動を通して必要な経験を得ているか。
・教師の援助は適切であったか。